

第 3 回モニタリングマニュアル改定ワーキンググループ 議事要旨

日時：令和 7 年 10 月 3 日（金）10：00～11：30
場所：永田町合同庁舎 7 階 701・702 会議室

1 出席者

（有識者）

赤井 厚雄	委員
浅見 泰司	委員
井出 多加子	委員
大佛 俊泰	委員
村木 美貴	委員

（自治体）

五十嵐 大	委員	
栗田 誠	委員	
西岡 清隆	委員	（代理出席：田中 雅幸）

（内閣府地方創生推進事務局）

高橋 謙司	事務局長
松家 新治	審議官
直原 史明	参事官
外村 嘉崇	参事官補佐
小山 敦士	参事官補佐

2 議事

(1) 開会

(2) 議事

＜モニタリングマニュアル改定案について＞

・資料 2－1～資料 5 を用いて、事務局より説明を行った。

○ 赤井 委員

- ・ 前回ワーキンググループの議論を的確に踏まえてアップデートしていただいた。これで十分くらいだが、永遠のベータ版みたいなものなので、毎年実施していく中で出てくる運用面などの課題を改善していったほしい。
- ・ 資料 2－2 の 2 ページで、モニタリングがやらされ仕事になっているとあったが、

自治体が自ら評価をして、施策の効果を確かめていくための枠組みなので、本来はやらされ仕事ではない。ただ、手続きが複雑過ぎるので、自治体が自由に考えてやれとなると、やらされ仕事になっていく。そこをサポートするのが、このモニタリングマニュアルになる。

- ・ データの使い方は、最初は試行錯誤でいいが、後付けで都合のいい指標を持ってくると本末転倒になる。ただ、より良く把握できる新しいデータが出てきた場合は、それを使うことを否定するものではない。
- ・ 日進月歩で色々なデータが生まれるので、その環境をどう整備するかは国の仕事であり、地方創生推進事務局がノウハウを整理することもある。国全体では、デジタル庁が政策の効果を見える化するダッシュボードに予算をつけて準備しているので、そこに対して年に1回とか、半年に1回、整理を踏まえて地方創生推進事務局でこういうものを載せてほしいと要望するサイクルになっていくと、本当に価値が出てくと思う。
- ・ 地域整備方針で目指しているものを言語化し、アウトカムと施策の関連性を見るとよい。そして、モニタリングを繰り返しながら、施策の方向性を修正し、質を上げていくと、5年後には目標に到達するイメージが湧いてくる。
- ・ 資料2-2の14ページと関連して、交換する情報量が圧倒的に多いので、頻繁ではなくとも、交流会は対面で開催した方がよい。

○ 大佛 委員

- ・ 資料2-2の3ページと9ページで、按分するに当たって、指定地域の中に大きな公園や河川、空地などがある場合の面積按分、あるいはタワーマンションや戸建てが偏在する場合の人口按分はおかしな結果になる場合がある。
- ・ 自治体が持っている基礎調査時のGISデータから、ざっくりとした床面積が出ると思うので、床面積ベースで住宅系の床面積按分、商業系の床面積按分などをすると、精度が少し高まるが、負担感については、自治体の試行実施の過程で確認していただければと思う。
- ・ 資料3の4ページで、毎年のPDCAサイクル的な絵になっているが、過去のデータも見ながら将来のことを考えて、どんどんよくなっていくスパイラルのような絵を描けると、今回の改定の意図も非常によく分かる気がする。
- ・ 資料5のモニタリングシートで、選択指標の記入欄は空白にするのか、あるいはテンプレート的に指標一覧がある程度入っていて、そこに書き込むのか。完全に空白にすると、指標が思いつかなかったりするので、イメージ喚起の工夫もあるとよい。
- ・ アップデートして、全体が少し複雑になりつつあるので、マニュアル全体の構造を明快に示すようなチュートリアルをやっていただくとよいと思う。

○ 井出 委員

- ・ 実際に作業される自治体の方々が、どのくらい取り組みやすくなったと感じているのか、残された問題はないのかということを伺いたい。
- ・ 資料２－２の10ページで、今年度の取組と目標値、５年間の関係が分かりやすくなっている。ただ、再開発事業の場合には床面積という目標を立てたとしても、実際に着工して建設に至るまでは、準備段階では床は全くできないものの、大変な作業量の準備段階があると思うのですが、そういう場合にモニタリングシートにどう記入すればいいのか、また、自治体で判断するのか伺いたい。

○ 村木 委員

- ・ 資料３の８～９ページのモニタリングエリアの考え方について、指定地域が大きいと、成果が見えにくいので、指定地域の中で特定のエリアを切り出して、そのエリアの数字を拾う方が、数字がより明確に見えて、自治体としても評価しやすいのではないかと私は認識しているが、自治体がどう思うか伺いたい。

○ 浅見 委員

- ・ 資料２－２の２ページで、活用方法の一つとして議会説明があるかと思う。それがＡの庁内利用なのか、Ｂの市民説明なのか案件によって違うかもしれないが、どう入れるかは、事務局に委ねたいと思う。
- ・ 資料２－２の３ページで、町丁目単位がメッシュデータを使っているかのように見えるので、町丁目の形にしたほうが勘違いをされないと思う。
- ・ 資料２－２の４ページと６ページで、指標を見直した場合や暫定目標値を活用する場合は、それを明示していただくようにした方がよい。
- ・ 資料２－２の11ページで、指標の組合せの例示だけでなく、複数の指標を組み合わせる場合の考え方を説明したほうが分かりやすいと思う。
- ・ 資料４のナレッジ集という名称について、ナレッジという言葉は曖昧な表現なので、資料２－３の４ページにあるように解説・事例集とした方がいいかもしれない。
- ・ 資料３の４ページで、「※モニタリング結果だけをもって評価を実施する訳ではない。」と書いてしまうと、やはりモニタリング結果は評価に使うのかと自治体を疑心暗鬼にさせると思うので、表現を検討した方がよい。
- ・ 井出委員がおっしゃっていたことに関して、例えば事業前の準備段階の熟度を示すことは結構あって、数値が０の後に検討中や協議会設置、事業着手など、どの事業段階か記載した方がいいこともある。ただ、エリアの中で再開発が多くあると煩雑になってしまうので、そういう意味では定性的な考察で記載することでいいかもしれないが、少し例示した方がいいと思う。

○ 五十嵐 委員

- ・ 実際にモニタリングマニュアルに基づいてモデル地域として作業をして、負担感や作業ボリューム、分かりやすさであるとか、判断に迷うところがないとか、最終的には適切なモニタリングにつなげられるかというところを含めて、課題などがありましたら、次の段階で御報告などをさせていただければと考えている。

○ 栗田 委員

- ・ 井出委員から話があった再開発の場合について、おっしゃるとおり、完成まで数字は出ず、完成時に住宅が何戸供給されたとか、商業施設が何平米供給されたというような、定量的な数値として出てくると思う。また、再開発を進めるに当たって、周辺での再開発への期待感から、例えば地価の上昇とか、周辺での小さな取組も出てくるので、そういったところを定性的な考察として記入できるようなモニタリングシートになっているので、非常にありがたい。
- ・ 村木委員から話があった指定地域とモニタリングエリアの考え方について、岐阜市では、指定地域の中で大型のプロジェクトが起きるのは数年に一度のような形で、ちょっと動きが少ないところである。指定地域で動くもの、それに触発されるような周辺での開発が進むようなところを捉えて、指定地域より広いエリアで開発が動いてるとか、人口が増加になっているなど波及効果的なところを拾えるようなモニタリングエリアの考え方を記載されているので、非常にありがたい。

○ 田中 委員代理

- ・ 評価しやすいモニタリングエリアの設定を示されているので、この中から自分たちが施策をチェックするために最も適するエリアを設定すればいいと思う。
- ・ モニタリングシートについても、施策を評価しやすいようにアップデートされており、作業のやりがいがある。
- ・ 資料5で、記入箇所が黄色で塗りつぶされているが、指標の数値によって色を分けるようなモニタリングシートとしてはどうか。例えば、想定以上の成果が出た場合は緑色、足りない場合は黄色などに着色することで、他都市が見ても分かりやすいし、毎年の比較も容易になると思う。

○ 事務局

- ・ 井出委員から話があった再開発の場合について、アウトカム指標とアウトプット指標の選択肢、指標の見直しも可とするなど工夫をしている。最初から自治体で判断するのは難しいと思うので、提出いただくモニタリングシートを見て、事務局としてもフォローしていきたい。

＜改定に向けた今後のスケジュール＞

- ・資料 6 を用いて、事務局より説明を行った。

(3) 閉会